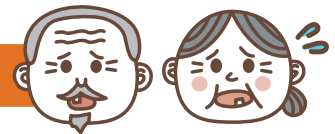


歯の喪失と認知症の関係

近年、認知症の高齢者が増加傾向にあります。噛める歯を維持することで認知症の予防に効果があることが、最新の研究調査で明らかになっています。



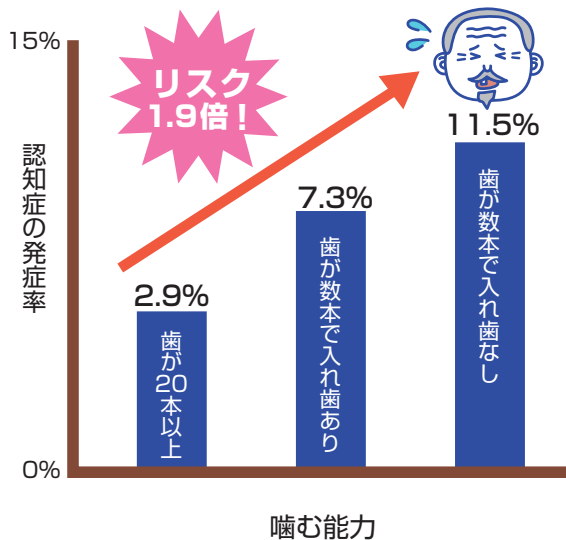
歯を失うと認知症リスクが約2倍に



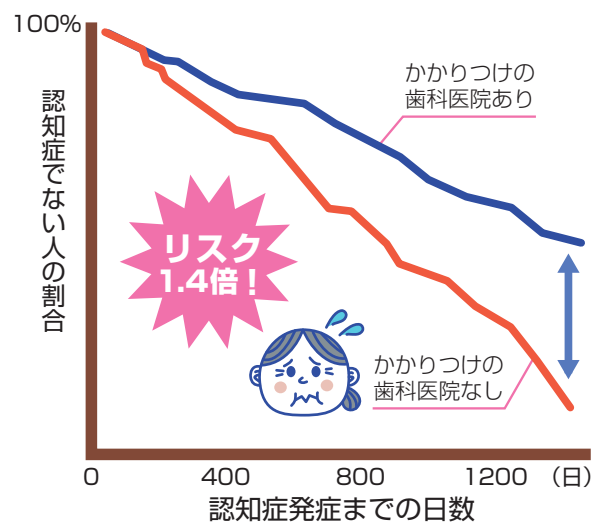
厚生労働省は、噛む能力が弱く、かかりつけの歯医者さんがない人ほど認知症になる確率が高くなる研究結果を発表しました。歯が20本以上残っている人に比べて、歯が数本で入れ歯を使わない人の認知症リスクは**1.9倍**に、かかりつけ医院のある人に比べて、ない人の認知症リスクは**1.4倍**になるそうです。

4年間で認知症を発症した、65歳以上の人を示すグラフ

噛む能力と認知症の発症率との関係



かかりつけと認知症発症日数との関係

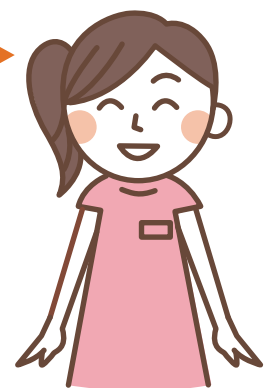


参考：平成22年 厚生労働科学研究（神奈川歯科大学）より



歯を1本でも残す努力が認知症を予防する

歯を失う最大の原因は歯周病ですが、その原因となる歯周病菌は、歯磨きだけでは取り除くことができません。歯を1本でも残して認知症を予防するために、かかりつけの歯医者さんで歯のクリーニングや定期的な健診を受けましょう。もし、歯に異常を感じたらそのまま放置せず、受診することをお勧めします。



当院では高齢者の歯周病治療と定期的なケアに力を入れています

